

授業科目名： 国語	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 白井 伊津子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語（書写を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 国語科の指導および言葉の育成に必要となる日本語の知識と文学教材の読解・分析力を身に付ける。			
授業の概要 国語科教材における言葉の使い方や特徴（言葉の働き・文字・表記・語彙・文法・言葉遣い・文体・文と文章・表現技法・音読朗読）など、教育者として指導に必要となる日本語に関する基礎的な知識を習得するとともに、文章の読解や表現に必要な観点を学び、自らが教材を検討・分析していく方法とその力を養っていく。また教材を読み聞かせる力、正しい筆順で正確な文字を書く力を身につけることを目指す。あわせて書写の基本的な技能を学ぶ。			
授業計画 第1回：国語科の指導のために必要となる観点について 第2回：国語科教材における文字とその歴史について 第3回：国語科教材における表記（現代仮名遣い、送り仮名など）について 第4回：書写の基礎となる字体、書体の理解（六書、書体、字体と漢字の構成要素など） 第5回：書写の実践（筆順の原則、硬筆、毛筆の字形や点画など） 第6回：国語科教材における語彙や語と意味の関係について 第7回：国語科教材における文とその構造、とくに文法について 第8回：国語科教材における文とその構造、とくに品詞について 第9回：国語科教材における文体（待遇表現、位相語、方言、共通語など）について 第10回：国語科教材における文章の種類と表現技法（修辞）、および伝統的な言語文化について 第11回：国語科教材における説明的な文章の読解（1）文章の構成について 第12回：国語科教材における説明的な文章の読解（2）情報と情報の関係について 第13回：国語科教材における文学的な文章の読解（1）読解の手順について 第14回：国語科教材における文学的な文章の読解（2）心情の変化と表現の工夫について 第15回：文章の創作と音読・朗読について 定期試験は実施しない。			
テキスト 白井伊津子『初等教育における「国語」の理解と指導』清文堂			
参考書・参考資料等			

授業中に適宜提示する。また関連の資料を配布する。

学生に対する評価

事前事後課題の提出状況と内容（40%）、理解度の確認テスト（50%）、レポート（10%）によって総合的に評価する。

授業科目名： 社会	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：伊原 浩昭 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 社会		
授業のテーマ及び到達目標			
小学校社会科の基本的な考え方や学習の仕方について学習指導要領を基に理解するとともに、教材研究や教材開発の進め方を習得する。また、社会科は社会事象を多角的・多面的に捉え、問題点を追求して解決する力を養う教科であり、小学校ではその基礎を養うことを認識する。			
授業の概要			
小学校における社会科の学習の仕方、教材開発の方法等を学ぶことにより、授業に挑む姿勢を考えさせる。指導計画の作成、教材研究の進め方、身近な地域の教材化、学習指導案の作成、I C Tの活用等については、作業学習やグループワーク、グループディスカッション、現地調査など行い実践力を身につけさせるとともに、多様な指導法についても理解させたい。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション、社会科が目指す子ども像について→課題レポート①			
第2回 社会科教育の歴史(1) 初期社会科の歩み			
第3回 社会科教育の歴史(2) 学習指導要領と教科構造の変遷(第8次改訂まで)			
第4回 社会科教育の歴史(3) 新学習指導要領(平成29年告示)が目指す社会科			
第5回 授業内小テスト、社会科教育の現状と課題(I C T環境の整備)			
第6回 地理的学習(1) 中学年(3.4年生)身近な地域の学習→課題レポート②			
第7回 地理的学習(2) 高学年(5年)国土や産業の学習、気候の学習			
第8回 歴史的学習(1) 小学校社会における歴史的学習の内容			
第9回 歴史的学習(2) 歴史的人物の扱い 人物による歴史学習の実際			
第10回 地域教材を用いた学習(1) 郷土の歴史(鎌倉幕府と千葉氏)			
第11回 地域教材を用いた学習(2) 現地調査(大巖寺)、郷土の人物→課題レポート③			
第12回 公民的学習(1) 政治の学習の内容 政治学習の実際			
第13回 公民的学習(2) 国際学習の内容 国際学習の実際			
第14回 社会科における学習評価 学習評価の方法			
第15回 授業内試験 小学校社会科学習のまとめ			
定期試験は実施しない			
テキスト 「初等社会科教育 社会科教師への道 概論編」，伊原浩昭，白鷗社 「小学校学習指導要領解説 社会編」，文部科学省，日本文教出版			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価 提出課題レポート（30％）授業内小テスト（20％）授業内試験（50％）			

授業科目名： 算数	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 御園生 博文
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・算数		
授業のテーマ及び到達目標			
算数科教育の現状と課題及び目標、算数科を構成する各領域について具体的な例を挙げて説明することができるようになる。			
授業の概要			
小学校算数科で取り扱う「数と計算」、「図形」、「測定・変化と関係」、「データの活用」という領域構成を踏まえ、系統的に算数科の指導内容を理解する。 また、授業実践につながる具体的事例から、算数科の教科としての特質や意義、目的及び、数学的活動について理解する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス、算数科教育の意義			
第2回：算数科の目標と領域の構成			
第3回：「数と計算」領域の指導と留意点1（整数）			
第4回：「数と計算」領域の指導と留意点2（小数と分数）			
第5回：「数と計算」領域の指導と留意点3（加法・減法）			
第6回：「数と計算」領域の指導と留意点4（乗法・除法）			
第7回：「数と計算」領域の指導と留意点5（式の表現と読み）			
第8回：「図形」領域の指導と留意点1（平面図形・立体図形）			
第9回：「図形」領域の指導と留意点2（図形の計量）			
第10回：「測定」領域の指導と留意点			
第11回：「変化と関係」領域の指導と留意点1（関数の考え）			
第12回：「変化と関係」領域の指導と留意点2（割合の考え）			
第13回：「データの活用」領域の指導と留意点1（統計的探求プロセス）			
第14回：「データの活用」領域の指導と留意点2（統計データの読み取り）			
第15回：主体的・対話的で深い学び			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』（平成29年告示）			
参考書・参考資料等			
授業中に適宜資料を配布する。			

学生に対する評価

授業内容に関するリアクションペーパー等（30点）、レポートの内容（30点）、授業内試験（40点） 合計100点

授業科目名： 理科	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 末永 昇一
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 理科		
授業のテーマ及び到達目標 自然の事象に興味・関心をもち、小学校理科の内容を深く理解するとともに、児童が意欲的に取り組む小学校理科の授業を行うための基礎的な力を身に付ける。小学校理科の内容について深く理解し、教科用図書で扱っている様々な自然の事象について論理的に説明することができるとともに、児童が意欲的に問題解決する小学校の理科授業について述べるができる。			
授業の概要 小学校学習指導要領（理科）に示された内容の内、特に指導上の工夫を要するものについての見識を高める。自然の事象に問題意識をもち、実験・観察を実際に行い、結果を考察することを通して、児童に科学的な見方や考え方、内容についての概念や知識を獲得させるための授業のポイントを修得する。			
授業計画 第1回：小学校理科で大切にすること、月の観察方法について 第2回：小学校理科における安全への配慮について、音の性質 第3回：物質の三態変化 第4回：空気、水、金属の熱による体積変化 第5回：てこの働き、花粉の観察 第6回：ふりこの働きとふりこの決まり 第7回：昆虫の定義、昆虫の変態、植物の体のつくり、ICTの活用 第8回：動物の誕生、水中の微生物の観察、顕微鏡の使い方とスケッチの仕方、ICTの活用 第9回：物のあたためり方 第10回：電気回路について、電気を通すものと通さないもの、電流の向き、乾電池の直列つなぎと並列つなぎについて 第11回：太陽・月の大きさと距離について、月の満ち欠け、ICTの活用 第12回：永久磁石や電磁石の性質について 第13回：植物の水の通り道、光合成 第14回：水溶液の定義、溶解度について 第15回：LED・手回し発電機・コンデンサー・光電池等について 定期試験は実施しない。			
テキスト			

なし
参考書・参考資料等 文部科学省『小学校学習指導要領解説 理科編』（平成29年告示）
学生に対する評価 レポート（60％）、観察記録（月・花粉・微生物）（20％）、自然の観察のプレゼンテーション（20％）で総合評価する。

授業科目名： 生活	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 末永 昇一
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生活		
授業のテーマ及び到達目標			
生活で扱う活動に内在している指導のねらいを理解し、児童の思いやねがいを大切にし、気付きを高める生活の授業を行うための基礎的な力を身に付ける。生活の教科用図書で扱っている様々な活動のねらいを理解し、児童が豊かな学びをするための教師の役割を述べるができる。生活で扱う自然及び社会に興味・関心をもつ。			
授業の概要			
小学校学習指導要領（生活編）に示された内容の内、指導のねらいがつかみにくい活動についての見識を高める。活動の中で児童はどのような気付き、思いやねがいをもつのか、実際に自分で体験することを通して理解する。また指導者の目線をもって活動することで、気付きを高めるための指導の在り方を修得する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス、生活科と栽培について			
第2回：音をつかったおもちゃの活動の楽しさと気付き			
第3回：水をつかった活動の楽しさと気付き			
第4回：秋の自然や動植物の不思議な変化や小さな変化への気付き			
第5回：学校探検の楽しさと気付き			
第6回：どんぐりごまを作って遊ぶ楽しさと気付き			
第7回：町探検の楽しさと気付き			
第8回：町探検の発表会を通して学ぶこと			
第9回：かざぐるまを作って遊ぶことから学ぶこと			
第10回：落ち葉を使った作品づくりを通して学ぶこと			
第11回：おもちゃづくりから学ぶこと			
第12回：ひとり1栽培から学ぶこと			
第13回：自分の成長を振り返ることから得られるもの			
第14回：小1プロブレムとスタートカリキュラムについて			
第15回：冬の自然の楽しみ方			
テキスト			
末永昇一『ここから始める生活科』（レベルアップ授業力 小学校生活）学校図書（2018）			
参考書・参考資料等			

槇英子, 末永昇一, 木下和彦『ふしぎだね。きれいだね。たのしいね。』学校図書出版 (2021)

学生に対する評価

レポート 60%、栽培の観察記録 20%、自然の観察プレゼンテーション 20%

授業科目名： 音楽	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 外崎 純恵
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 音楽		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 小学校音楽科の指導に必要な音楽の基礎知識と基礎的な演奏技術を獲得し、児童の指導に生かすことができる。 ・ 小学校音楽科歌唱共通教材曲の楽譜を読むことができる。			
授業の概要 本授業は座学（音楽の基礎知識）と演習（ピアノ弾き歌いレッスン）による往還的な授業内容となります。小学校の音楽実践に必要な諸能力を身につけます。座学ではICT機器を使用した学習を行い、演習では個人レッスンをを行います。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、習熟度分け 第2回：音楽の基礎理論（譜表と音名）／ピアノ弾き歌いの指導1 第3回：音楽の基礎理論（音符と休符）／ピアノ弾き歌いの指導2 第4回：音楽の基礎理論（拍子とリズム）／ピアノ弾き歌いの指導3 第5回：音楽の基礎理論（音程1）／ピアノ弾き歌いの指導4 第6回：音楽の基礎理論（音程2）／ピアノ弾き歌いの指導5 第7回：音楽の基礎理論（音階と調1）／ピアノ弾き歌いの指導6 第8回：音楽の基礎理論（音階と調2）／ピアノ弾き歌いの指導7 第9回：音楽の基礎理論（音の重なり1）／ピアノ弾き歌いの指導8 第10回：音楽の基礎理論（音の重なり2）／ピアノ弾き歌いの指導9 第11回：音楽の基礎理論（コード理論1）／ピアノ弾き歌いの指導10 第12回：音楽の基礎理論（コード理論2）／ピアノ弾き歌いの指導11 第13回：音楽の基礎理論（用語と記号）／ピアノ弾き歌いの指導12 第14回：音楽の基礎理論（音楽ジャンルと分析）／ピアノ弾き歌いの指導13 第15回：ピアノ弾き歌い試験 定期試験は実施しない。			
テキスト 中里南子、長谷川恭子、中村昭彦、小野隆司「音楽の基礎と楽しい伴奏-入門編 幼稚園教諭・保育士・小学校教諭・養成校のために」（スタイルノート）			
参考書・参考資料等			

なし
学生に対する評価 音楽の基礎知識に関する課題の提出30点、個人レッスンの意欲・内容・進捗状況20点、ピアノ 弾き歌い発表会及び筆記試験50点 合計100点

授業科目名： 図画工作	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 山田 晋治
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・図画工作		
授業のテーマ及び到達目標			
造形表現活動を通して豊かな感性と表現力を育み、より自由に楽しく表現できるようになることを目指し、指導に必要な基本的な知識・技能・態度を習得して、子どもたちの主体的な表現を促す実践的指導力の礎を築くことを目標とする。			
授業の概要			
造形表現活動を楽しむことを通してその意義を理解し、図画工作科の基礎となる知識・技能を習得し、教材に関する理解を深め、造形的表現力と表現意欲の向上をはかる。毎回の授業内容をスケッチブックに整理し、指導に役立つ学びの記録を作成する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（1枚の紙から広がる創造的な表現について）			
第2回：素描（1）明暗表現・透視図法の基本を学び立体・遠近表現と発達を、鑑賞作品から理解する。			
第3回：素描（2）写実と心象表現:表現様式と自己表現についての理解を深める。			
第4回：粘土（1）触感：粘土のつくり方を学び、粘土教材の意味を理解する。			
第5回：粘土（2）立体表現：立体作品をつくり、必要な材料や用具、環境設定を知る。			
第6回：版表現（1）スタンピング・デカルコマニー・ステンシル：版に表す教材を知る。			
第7回：版表現（2）スチレン版画・紙版画・ローラー遊び：版表現とローラーを用いた教材について学ぶ。			
第8回：色彩（1）色の世界：にじみ絵技法を用いて色彩理論と色彩効果について学ぶ。			
第9回：色彩（2）色と心：色づくり、色彩心理について学び、染め紙技法を用いて配色について学ぶ。			
第10回：紙製作（1）カード：とび出すカードの仕組みを学び、これまでの学習をいかして制作する。			
第11回：紙製作（2）ミニ絵本：視覚伝達を主とした絵本に触れ、絵で展開する絵本を制作する。			
第12回：素材体験 新聞紙・段ボール・自然材料など多様な素材を用いた遊びや技法・教材を知る。			
第13回：コラージュ（1）コラージュ技法を知り、個人で作品をつくり質感による表現を楽しむ。			
第14回：コラージュ（2）協働によるコラージュ制作を楽しみ、相互作用の効果と意義を理解する。			
第15回：コラージュ（3）作品を仕上げ、発表し、鑑賞して表現と評価について学ぶ。			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
参考書・参考資料等			
『令和6年度版文部科学省検定教科書』日本文教出版／開隆堂出版			

学生に対する評価

授業参加状況30% スケッチブック（B4以上）の評価50% 共同作品・提出プリント・課題レポート等20%

授業科目名： 家庭	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 庄司 佳子 担当形態：単独
科 目	教科理論及び教科の教育課題に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 家庭		
授業のテーマ及び到達目標 家政学は、「家庭生活」の実態や構造、社会との関係を直接の研究対象として、その好ましい実現を目指す科学である。その科学の特性や今日的な存在意義について授業を通して考える。家庭科における普遍的真実（世界中のだれもが合意するような考え）や価値のある重要な内容など個人の概念を拡張することで、教育者として家庭科指導を行うことの重要性和価値について考えることができる。			
授業の概要 家庭科の成立経緯が分かり家庭科教育における教科理論について考察する。 家庭科で学ぶ家庭生活は、地域社会や居住環境、世界まで視野を広げなければならない。その点から「個人の成長」と「社会人としての役割」を学ぶ家庭科の教育課題や生活課題、その課題解決のための方策を検討する。			
授業計画 第1回：家庭科教育の発展とその歴史的背景、家庭科教育と家政学のつながり 第2回：家族の変遷とこれからの家族 第3回：子供と親、子育ての課題 第4回：学校教育における食文化の継承 第5回：様々な加工品や調理に利用され、調理性に富む食品（実験実習） 第6回：加熱調理の基本（実験実習） 第7回：安全・安心・快適な居住空間 第8回：環境に配慮した衣生活 第9回：ミシン縫いで取り組む製作実習、ICTの活用 第10回：ミシン縫いで取り組む製作実習、ICTの活用 第11回：家族と地域社会のつながり 第12回：消費者の役割と契約の基礎 第13回：18歳成年年齢と消費者トラブル 第14回：持続可能な開発目標（SDGs）と家庭科教育 第15回：家庭科教育の意義と課題についての振り返りと解決策 定期試験は実施しない。			
テキスト			

小学校学習指導要領解説 家庭編 文部科学省 わたしたちの家庭科 5・6 開隆堂出版	
参考書・参考資料等	
・子どものためのライフ・タイル「自立する子どもになろう」 マリリン・バーンズ、マーサ・ウェストン絵、永田美喜訳 晶文社	
・「スキルズ・フォア・ライフ」S・コウチ 家政教育社	
・「子供の誕生」フィリップ・アリエス みすず書房 等	
学生に対する評価	
・毎回の授業レポート	30点
・実験実習・製作実習作品	30点
・グループ学習や全体共有への参加	30点
・期末レポート	10点

授業科目名： 体育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 清水 将之
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標			
学習指導要領に示された当該教科（体育科）の目標や内容を理解する。			
授業の概要			
1）小学校学習指導要領「体育」における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解する。			
2）個別の学習内容について指導上の留意点を理解する。			
3）当該教科の学習評価の考え方を理解する。			
4）当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することを理解する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、小学校学習指導要領ならびに小学校学習指導要領「体育」の変遷、体育科の目標・・・教科の目標、各学年の目標、			
第2回：体育科の内容・・・内容構成の考え方（運動領域と保健領域）			
運動領域の内容：体づくり運動、器械運動系、陸上運動系、水泳系、ボール運動系、表現運動系、集団行動			
保健領域の内容：毎日の生活と健康、育ちゆく体とわたし、心の健康、けがの防止、病気の予防			
体育科における学習評価の考え方			
第3回：第1学年及び第2学年の内容と内容の取扱いについて(1)：体づくり運動遊び、器械・器具を使つての運動遊び			
第4回：第1学年及び第2学年の内容と内容の取扱いについて(2)：走・跳の運動遊び、水あそび、ゲーム			
第5回：第1学年及び第2学年の内容と内容の取扱いについて(3)：表現リズム遊び			
第6回：第3学年及び第4学年の内容と内容の取扱いについて(1)：体づくり運動、器械運動、			
第7回：第3学年及び第4学年の内容と内容の取扱いについて(2)：走・跳の運動、水泳運動、ゲーム			
第8回：第3学年及び第4学年の内容と内容の取扱いについて(3)：表現運動			
第9回：第5学年及び第6学年の内容と内容の取扱いについて(1)：体づくり運動、器械運動			
第10回：第5学年及び第6学年の内容と内容の取扱いについて(2)：陸上運動、水泳運動			
第11回：第5学年及び第6学年の内容と内容の取扱いについて(3)：ボール運動、表現運動			
第12回：第3学年及び第4学年の内容と内容の取扱いについて：保健・・・健康な生活、体の発育・発			

達

第13回：第5学年及び第6学年の内容と内容の取扱いについて：保健・・・心の健康、けがの防止、病気の予防

第14回：他教科との連携・・・幼保小連携と幼児期の終わりまでに育って欲しい姿、生活科との連携、道徳科との連携

第15回：体育科における児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、体育科と児童のウェルビーイングについて

*第1～2回、第3～5回、第6～8回、第9～11回、第12～13回においてまとめのレポート提出を求めます。

テキスト

文部科学省（2018）「小学校学習指導要領」、東洋館出版社

文部科学省（2018）「小学校学習指導要領解説編 体育」、東洋館出版社

参考書・参考資料等

各回で提示します。

学生に対する評価

各まとめのレポート提出（80%）、授業への参加（アクティブ・ラーニング）として授業内における質問やダイアログ（対話）として（20%）を合計し、60点以上を合格とする。

授業科目名： 英語	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 畑江 美佳
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 外国語		
授業のテーマ及び到達目標 （１）小学校における外国語教育において、授業実践に必要な英語力を身に付ける （２）第二言語習得に関する基本的な内容を理解する。 （３）音声、文法、語彙、文構造等、英語に関する基本的な知識を身に付ける。 （４）児童文学と異文化理解の知識を身に付ける			
授業の概要 授業場面を意識しながら、小学校における外国語活動（中学年）・外国語（高学年）の授業実践に必要な実践的な英語運用力を身に付け、合わせて小中学校の接続も踏まえながら、小学校外国語・外国語活動の授業を担当するために必要な背景的な知識を身に付ける。			
授業計画 第１回：挨拶についてのクラスルームイングリッシュ 第２回：基本英会話に関してのクラスルームイングリッシュ 第３回：基本英文についてのクラスルームイングリッシュ 第４回：第二言語習得について 第５回：音声に関する英語の知識とその実践 第６回：語彙に関する英語の知識とその実践 第７回：文構造・文法に関する英語の知識とその実践 第８回：書き方についての英語の知識について 第９回：異文化理解 第１０回：ゲーム・歌・チャンツの知識と理解 第１１回：英語による挨拶の理解と実践練習 第１２回：基本英会話の理解と実践練習 第１３回：基本英文の理解と実践練習 第１４回：主教材の絵本を使った活動の知識とその理解 第１５回：その他異文化を伝える等、様々な絵本を使った活動の知識とその理解 定期試験は実施しない。			
テキスト 『小学校学習指導要領』 文部科学省 2017年3月			
参考書・参考資料等			

樋口忠彦他『小学校英語教育法入門』研究社（2015年）
学生に対する評価
授業への積極的参加20%、課題50%、学期末レポート30%の割合で総合的に評価する。

授業科目名： 初等国語科教育法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 白井 伊津子
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・国語（書写を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
学習指導要領に示された国語科の目標、育成を目指す資質・能力を理解し、国語科の学習内容について背景となる日本文学や日本語学の学問領域と関連させて理解を深めるとともに、基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。			
授業の概要			
学習指導要領に基づく、国語科の「言葉による見方・考え方」を働かせた「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、教育内容と教育方法を理解する。あわせて、教材研究の方法ならびに効果的な指導法や評価の仕方について学び、それらを「話す・聞く」「書く」「読む」などの言語活動を通し、教育として実践する方法を、模擬授業等によって総合的、実践的に身に付ける。			
授業計画			
第1回：国語科の目標、内容、全体構造を把握した上で、国語に関する子どもの認識、思考、学力などの現状を把握し、実態を踏まえた授業設計の重要性について、基礎的な学習指導理論に基づきながら理解する。			
第2回：国語科の学習内容について指導上の留意点を踏まえ、内容に応じて、電子機器や情報通信技術などを効果的に活用する方法を理解する。			
第3回：国語科の学習評価のあり方を学ぶとともに、学習指導案の基本的な構成について理解する。			
第4回：「話すこと・聞くこと」の言語活動を主とする学習指導案を、日本語学の研究を踏まえた教材研究とともに、子どもの発達や実態を視野に入れて作成する。			
第5回：「話すこと・聞くこと」の言語活動を主とする模擬授業を実践し、内容について議論しながら改善すべき点を考察する。			
第6回：「書くこと」の言語活動を主とする学習指導案を、日本語学の研究を踏まえた教材研究とともに、子どもの発達や実態を視野に入れて作成する。			
第7回：「書くこと」の言語活動を主とする模擬授業を実践し、内容について議論しながら改善すべき点を考察する。			
第8回：「知識及び技能」（とくに言葉の特徴や使い方）の定着を主とする模擬授業を実践し、内容について議論しながら改善すべき点を考察する。			
第9回：「読むこと」（説明的文章）の言語活動を主とする学習指導案を、日本文学や論理的文章等の研究を踏まえた教材研究とともに、子どもの発達や実態を視野に入れて作成する。			

- 第10回：「読むこと」（説明的文章）の言語活動を主とする模擬授業を実践し、内容について議論しながら改善すべき点を考察する。
- 第11回：「読むこと」（説明的文章）の言語活動において、主として情報・メディアを活用する模擬授業を実践し、内容について議論しながら改善すべき点を考察する。
- 第12回：「読むこと」（文学的文章）の言語活動を主とする学習指導案を、日本文学や世界の文学等の研究を踏まえた教材研究とともに、子どもの発達や実態を視野に入れて作成する。
- 第13回：「読むこと」（文学的文章）の言語活動を主とする模擬授業を実践し、内容について議論しながら改善すべき点を考察する。
- 第14回：「知識及び技能」（とくに伝統的な言語文化）の定着を主とする模擬授業を実践し、内容について議論しながら改善すべき点を考察する。
- 第15回：全体の総括として、授業評価とその改善の方法を確認し、PDCAを授業設計に取り入れることの重要性を理解する。

定期試験は実施しない。

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』（平成29年）

参考書・参考資料等

『国語三下あおぞら』光村図書出版、 『国語二下赤とんぼ』光村図書出版

『はじめて学ぶ人のための国語科教育学概説・小学校』明治図書出版

『初等教育における「国語」の理解と指導』清文堂出版

学生に対する評価

提出物の提出状況と内容 50%、 模擬授業の内容 40% 受講時の発言・意欲 10% によって総合的に評価する。

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：伊原 浩昭
初等社会科教育法	必修科目	1 単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・ 社会		
授業のテーマ及び到達目標			
小学校社会科教育の目標や、公民的資質の育成という基本理念を概括的に理解するとともに、社会科の担当教員として必要な資質の育成と授業実践の基礎となる知識・技能や実践的指導力を習得する。新学習指導要領の趣旨を理解し、今後の社会科教育の在り方を追究する。			
授業の概要			
社会科教育の目標や基本的理念を学び、公民的資質を育成するためにどのような教育理念を持って社会科指導に臨むべきか考える。学習指導理論を踏まえた授業設計の方法を習得するとともに、教材研究や学習指導案の作成、ICTの活用など授業に必要な基礎的なスキルの獲得を目指す。模擬授業ではアクティブラーニングの手法を取り入れ実践的な指導力の育成を図る。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、初等社会科教育の目標や理念、学習指導の在り方			
第2回：社会科学習指導の進め方① 教材研究の進め方、教科書や資料の扱い、授業の基本的事項			
第3回：社会科学習指導の進め方② 教育課程、年間指導計画、学習指導案の構想、本時の展開			
第4回：社会科学習指導の進め方③ 発問と板書、ICTの活用、学習評価の観点、評価方法			
第5回：中学年社会科の授業づくり①中学年社会科の目標と内容の理解、単元の教材化を学ぶ			
第6回：中学年社会科の授業づくり②単元の指導計画と学習指導案の作成、教材研究、相互検討			
第7回：中学年社会科の学習指導①模擬授業と課題研究（教材化と指導の実際）			
第8回：中学年社会科の学習指導②模擬授業と課題研究（学習評価の実践）			
第9回：中学年社会科の学習指導③模擬授業と課題研究（情報機器の活用）			
第10回：高学年社会科の授業づくり①高学年社会科の目標と内容の理解、単元の教材化を学ぶ			
第11回：高学年社会科の授業づくり②単元の指導計画と学習指導案の作成、教材研究、相互検討			
第12回：高学年社会科の学習指導①模擬授業と課題研究（教材化と指導の実際）			
第13回：高学年社会科の学習指導②模擬授業と課題研究（学習評価の実践）			
第14回：高学年社会科の学習指導③模擬授業と課題研究（情報機器の活用）			
第15回：授業内試験、試験内容の解説、初等社会科教育のまとめ			
定期試験は実施しない			
テキスト「初等社会科教育法 社会科教師への道2 実践編」，伊原浩昭，白鷗社 「小学校学習指導要領解説 社会編」，文部科学省，日本文教出版			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価 課題レポート（30％）、模擬授業（20％）、授業内試験（50％）			

シラバス

授業科目名： 初等算数科教育法		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 御園生 博文
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・ 各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む） ・ 算数		
授業の到達目標及びテーマ				
指導内容の目標及びICTの活用を含む効果的な指導法を吟味し、児童が主体となって活動する学習指導案を作成し、児童の思考の流れに沿った模擬授業を行うことができる。				
授業の概要				
算数科教育の目標や指導内容をふまえ、教材研究の仕方、数学的活動を大切にした学習指導を実施する際の留意点及び、評価のあり方等について理解する。これらの知識をふまえ、学習指導案を作成して模擬授業を行い、よりよい算数科の授業方法について協議を重ねる中で、実践的な指導力を身に付けていく。				
授業計画				
第1回：ガイダンス&算数科の目標				
第2回：数学的活動を通した算数学習と学習指導案				
第3回：算数科の教材研究とその方法				
第4回：学習評価の場面とその方法				
第5回：素材の提示と学習問題の設定				
第6回：自力解決と個に応じた指導				
第7回：比較検討時の留意点と発表のさせ方				
第8回：授業のまとめと板書・ノート指導の留意点				
第9回：算数科におけるプログラミング教育と ICT 機器の活用				
第10回：模擬授業（1）				
他の班の模擬授業に児童役として参加し、それぞれの授業の工夫・改善点等について討議する。				
第11回：模擬授業（2）				
他の班の模擬授業に児童役として参加し、それぞれの授業の工夫・改善点等について討議する。				
第12回：模擬授業（3）				
他の班の模擬授業に児童役として参加し、それぞれの授業の工夫・改善点等について討議する。				
第13回：模擬授業（4）				
他の班の模擬授業に児童役として参加し、それぞれの授業の工夫・改善点等について討議する。				
第14回：模擬授業（5）				
他の班の模擬授業に児童役として参加し、それぞれの授業の工夫・改善点等について討議する。				
第15回：模擬授業（6）				
他の班の模擬授業に児童役として参加し、それぞれの授業の工夫・改善点等について討議する。				
初等教科教育法（算数）で学んだことを振り返り、目指すべき算数科の授業について考える。				
定期試験は実施しない。				
テキスト				

シラバス

『初等教科教育法（算数） 算数、初めの一步！』御園生 博文 著、榊白鷗社
参考書・参考資料等 文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』（平成29年告示） 算数科教科書（1～6年）、その他授業で適宜紹介する
学生に対する評価 授業内容に関するリアクションペーパー等（40点）、作成した学習指導案の内容（30点）、模擬授業の実践（30点）、合計100点により総合的に評価

授業科目名： 初等理科教育法		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 末永 昇一
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・理科		
授業のテーマ及び到達目標				
児童が意欲的に取り組む小学校理科の授業を行うための基礎的な指導法を身に付ける。単元の目標と主体的な問題解決を重視した小学校理科の学習指導案の書き方を理解し、児童のわかり方に沿った模擬授業を行うことができる。学習の目的に応じてICTを活用した授業をすることができる。				
授業の概要				
初等理科教育を概観し、理科の学習指導要領の構成と内容について学ぶ。また、理科の学習指導案の意義と書き方について学び、子どもが主体的・意欲的に取り組む理科の授業はどのようにすればよいのか、観察・実験における安全指導、教育メディアを活用した指導等について学ぶ。そして、実際に指導する場面を想定して、理科学習指導案の作成や教材研究、模擬授業を行う。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション（理科の授業のアウトライン）小学校学習指導要領理科の目標（1） ー学習指導要領での「自然」とは何か。理科の見方考え方とは何か				
第2回：小学校学習指導要領理科の目標（2）ー「科学的」とはどういう意味か 学習指導要領と問題解決、問題解決の学習の進め方				
第3回：学習指導案を書く理由、学習指導案の書き方「単元について」「単元の目標」				
第4回：単元構成と学習指導案、「単元の指導計画」の書き方				
第5回：学習指導案の書き方「本時の目標」、導入の役割、問題解決と深い学びへの指導のポイント				
第6回：問題解決の学習と予想の在り方、学習指導案「本時の展開」の書き方、理科の板書				
第7回：模擬授業（1）導入の工夫				
第8回：模擬授業（2）教材の工夫				
第9回：模擬授業（3）教材研究を授業に生かす				
第10回：模擬授業（4）指導技術を高める				
第11回：模擬授業（5）児童の考えを授業に反映する				
第12回：模擬授業（6）他の人の授業を参考にする				
第13回：模擬授業（7）授業改善の視点と具体策を明確にする				
第14回：模擬授業（8）授業改善の視点と具体策を明確にする、 本講義で学んできたことをまとめる				

第15回：理科教育とプログラミング・理科の教科経営・理科の学習評価のあり方
定期試験は実施しない。理科学習でのICT活用

テキスト

文部科学省（平成29年6月告示）『小学校学習指導要領解説 理科編』

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領(理科)、その他印刷物にて配布

学生に対する評価

レポート30%，理科学習指導案20%，模擬授業30%，まとめのレポート20%，により総合的に評価する。

授業科目名： 初等生活科教育法		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 末永 昇一
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・生活		
授業のテーマ及び到達目標				
児童が意欲的に取り組む小学校生活の授業を行うための基礎的な指導法を身に付ける。単元の目標と主体的な活動を重視した小学校生活科の学習指導案の執筆を通して、児童のねがいを大切にした指導法の基礎を理解する。学習の目的に応じてICTを活用した授業を構想することができる。				
授業の概要				
学習指導要領生活科の目標を理解する。生活科の学習内容をとらえ、付けたい力を検討した上で1単元を選び、グループで協力して教材研究を行う。その成果を発表するとともに、研究成果に基づいた小学校生活科の学習指導案（細案）を作成することを通して、小学校生活科の指導法の基礎を理解する。低学年児童が授業に集中する授業を目指し、模擬授業を行う。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション、小学校学習指導要領「生活」の教科の目標と内容構成 低学年児童への話し方と、子どもの話の聞き方				
第2回：生活科で育成するもの一気付きと気付きの広がり・高まり				
第3回：生活科の教材研究の仕方とそのポイント				
第4回：生活科の教材研究（グループで協力し、1つの単元の教材研究を行う。）				
第5回：教材研究の発表（1） 教材研究のポイントを知る。				
第6回：教材研究の発表（2） 教材研究の結果を授業に生かす。				
第7回：生活科での学習指導案を書く意味、生活科の学習指導案の書き方（1）－単元について				
第8回：生活科の学習指導案の書き方（2）－単元の目標と指導計画				
第9回：生活科の学習指導案の書き方（3）－本時の選び方、本時の目標、授業の導入				
第10回：生活科の学習指導案の書き方（4）－本時の指導の書き方（目標とめあて、本時の展開）				
第11回：模擬授業（1）－児童を引き付ける導入				
第12回：模擬授業（2）－前時からのつながりを意識した導入				
第13回：模擬授業（3）－本時の目当てがつかみやすい導入				
第14回：生活科誕生の歴史と生活科の指導、生活科の学習の対象、 生活科の板書と机間指導の在り方、第14回までのまとめ				
第15回：生活科の評価、生活科のICT、プログラミングと生活科 定期試験は実施しない。				
テキスト				

「レベルアップ授業力 ここから始める生活科」学校図書
参考書・参考資料等 文部科学省（平成29年6月告示）『小学校学習指導要領解説 生活編』 その他資料は、授業中に随時配布する。
学生に対する評価 レポート40%、生活科学習指導案30%、研究発表10%、模擬授業20%により総合的に評価する。

授業科目名： 初等音楽科教育法		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 外崎 純恵
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・ 音楽		
授業のテーマ及び到達目標				
小学校音楽科学習指導要領の内容を理解し各学年の「表現」及び「鑑賞」の具体的な活動方法を把握する。また、それらの活動を行うための指導案を作成し授業を実践する力を身につける。				
授業の概要				
音楽の授業を行うために求められる教員のスキルは、次の3点に集約される。①学習指導要領に位置づけられた音楽科の役割と内容を把握していること、②活動を行うための方法を知り、実践出来ること、③自身の様々な音楽経験を音楽科の授業力として活かせること。これに対し、本授業では、実践的な活動を中心として、次のような授業内容で力量形成を図る。まず、歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞の各活動について、実際に活動を経験しその目標と内容、評価方法を喫早する。次に、指導案を作成して模擬授業を行い、授業の実践力を養う。さらに、自身の音楽経験を音楽科の活動へと反映させるため、ポピュラー音楽や地域の民俗音楽など、様々な様式の音楽を自ら教材化し実践する力を養う。なお、教材化に関しては、情報機器・情報通信技術及び教材の活用方法を含めて指導する。また、授業の冒頭には毎回常時活動として音楽ゲームを行い、学生の基礎的な音楽能力の形成と実践力の向上を図る。さらに、第2回から第7回にかけてソプラノリコーダーの演奏活動を行い、基礎的な技能を養う。				
授業計画				
第1回：全1 5 回の授業の概要説明・音楽ゲームの意義と役割				
第2回：小学校音楽科学習指導要領の構成及び内容・〔共通事項〕の内容と役割				
第3回：歌唱活動の内容と展開方法				
第4回：器楽活動の内容と展開方法				
第5回：音楽づくりの内容と展開方法				
第6回：鑑賞の内容と展開方法・情報機器・情報通信技術及び教材の活用方法				
第7回：小学校音楽科学習指導案の構成と作成方法				
第8回：指導案の立案				
第9回：模擬授業(1)歌唱・器楽の授業				
第1 0回：模擬授業（2）音楽づくりの授業				
第1 1回：模擬授業（3）鑑賞の授業				
第1 2回：我が国及び世界の音楽の内容と展開方法				
第1 3回：我が国の楽器の演奏技法				

第14回：授業の総括 (1)グループによる音楽表現活動の準備

第15回：授業の総括 (2)グループによる音楽表現活動の準備

定期試験は実施しない。

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領開設 音楽編』

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

実技テストでの演奏30点、模擬授業での指導の様子30点、指導案の内容30点、発表会への
取り組み方10点。計100点満点

授業科目名： 初等図画工作科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 山田 晋治 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・図画工作		
授業のテーマ及び到達目標 図画工作科の目標と内容を理解し、育みたい資質・能力を授業場面において育成できる指導力の獲得を目指す。授業に用いる材料・用具・教材等に関する基本的な知識と技能を習得し、指導に必要な創造的な造形活動に対する考え方や態度を獲得することを目標とする。			
授業の概要 図画工作科の基礎となる様々な造形体験を通して、材料・用具・教材等に関する知識と技能を習得し、学習指導要領に示されている教科の目標や内容についての理解を深める。また、実際に教材研究と模擬授業を行うことを通して効果的な指導方法等について学習する。			
第1回：オリエンテーション 図画工作科の意義と目的について 第2回：題材と材料・用具について1（平面表現など） 第3回：題材と材料・用具について2（立体表現など） 第4回：教材研究1 平面表現（版画など）について 第5回：教材研究2 立体表現（木工など）について 第6回：子どもの発達と表現 指導観と評価観について 第7回：事例研究1 造形遊びをする活動などについて (コンピュータやカメラなどの情報機器や情報通信技術を用いた発表と鑑賞) 第8回：事例研究2 絵や立体、工作に表す活動などについて 第9回：事例研究3 鑑賞と模擬授業について (オリエンテーション：指導計画・学習指導案・学習評価等) 第10回：模擬授業1 造形遊びをする活動の題材などについて 第11回：模擬授業2 低・中学年の題材などについて 第12回：模擬授業3 中・高学年の題材などについて 第13回：模擬授業4 共同してつくりだす活動の題材などについて 第14回：模擬授業5 模擬授業の振り返りについて 第15回：まとめ 図画工作科の授業づくりの要点について 定期試験は実施しない。			
テキスト 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 図画工作編』文部科学省			
参考書・参考資料等			

『小学校学習指導要領(平成29年告示)』文部科学省、『令和6年度版文部科学省検定教科書』日本文教出版／開隆堂出版、『子どもの資質・能力を育む 図画工作科教育法』萌文書林

学生に対する評価

授業課題（60％）、模擬授業と学習指導案（20％）、課題レポート（20％）から総合的に評価する。

授業科目名： 初等家庭科教育法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 庄司 佳子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・ 家庭		
授業のテーマ及び到達目標			
家庭科は、自然科学的側面と社会的側面があり、その両側面を統合して生活の中で活用する力を育む総合的な教科である。本授業では、家庭科の教育課題や現代の生活課題を解決する指導の方法を探究し、家庭科の授業を創造する視点を広げて課題解決のための教材化や授業構成について考察することで、児童の実態に応じた学習指導案や教材・教具を作成して模擬授業ができる。			
授業の概要			
問題解決的な学習の過程に沿って指導内容を検討する。その検討からその課題を家庭科の授業でどう取り扱うか考察し、指導案の作成や模擬授業を通して家庭科の指導について実践的・体験的に学ぶ。			
授業計画			
第1回： 家庭科における「持続可能な社会の創り手」を育てる教育			
第2回： 「A家族・家庭生活」自分の成長の自覚を促す指導			
第3回： 「B衣食住の生活」と「C消費生活・環境」 問題解決的な学習と意思決定			
第4回： 「B衣食住の生活」栄養を考えた食事の指導と食育			
第5回： 伝統的な日常食である「ごはんのみそ汁」の指導（調理実習）			
第6回： 「B衣食住の生活」問題解決的な学習で学ぶミシン縫いの指導			
第7回： 「C消費生活・環境」物や金銭の大切さ、計画的な使い方の指導			
第8回： 「C消費生活・環境」消費者教育推進法と持続可能な社会の構築を目指す指導			
第9回： 家庭科学習におけるICTの活用			
第10回： 手縫いを生活に活かす（実習計画の作成・製作実習）			
第11回： 模擬授業のための指導案の作成・評価の仕方			
第12回： 手縫いを生活に活かす（製作実習）			
第13回： 模擬授業（1）グループワーク			
第14回： 模擬授業（2）グループワーク			
第15回： 「家族・家庭生活についての課題と実践」学んだことを生活につなげる指導			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
・ 小学校学習指導要領解説 家庭編 平成29年 文部科学省			

・ 小学校わたしたちの家庭科 5・6 開隆堂出版	
参考書・参考資料等	
・ 小学校家庭科教育法 大竹美登利・鈴木真由子・綿引伴子	
学生に対する評価	
評価基準は、達成目標に準ずる。	
・ 講義後のコメントの提出	30%
・ 調理実習・製作実習の作品・レポート	30%
・ 学習指導案の作成	20%
・ 模擬授業の取組み	20%

授業科目名： 初等体育科教育法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 清水 洋生
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標			
小学校教員として体育授業を実践するために以下の能力や知識、及びその実践力を獲得する。 ①小学校体育授業を実践する教師としての資質を高める ②小学校体育の基本的・基礎的学習内容を把握する ③体育授業を組み立てるマネジメントを学ぶ ④運動特性とレディネスに対応した教材創作の方法を学ぶ ⑤体育授業中の子どもへの把握と評価の記録方法を学ぶ ⑥学校教育における体育の意味を明確に把握する ⑦学習指導要領の趣旨に則った体育学習指導案を作成し、模擬授業を行う ⑧情報通信技術を活用した体育授業の指導方法、及び教材の活用について学ぶ			
授業の概要			
小学校で体育授業を実践していく際に必要な能力と知識を学ばせ、体育授業の実践力を育成する。新学習指導要領の改訂の趣旨・目標を理解し、各運動領域の例示内容に基づき授業を展開するために、指導法と授業実践の往還をし、小学校教員として体育の指導力を形成する。			
授業計画			
第1回：授業のガイダンスと評価の方法の説明。学習指導要領改訂の趣旨及び目標の解説			
第2回：学習指導要領体育科 目標及び内容 初等教育の内容構成			
第3回：学習指導要領体育科 各学年の目標 体育で育成する力とその評価のあり方			
第4回：学習指導要領体育科 体育科学習指導案の書き方と留意点 保健領域の目標と内容			
第5回：学習指導要領体育科 指導計画の作成と内容の取り扱い 模擬授業の進め方			
第6回：体育の実践的指導力の育成 体づくり運動の授業 授業記録の取り方とその活用			
第7回：体育の実践的指導力の育成 器械運動の授業 個人種目での学習形態の工夫とその指導			
第8回：体育の実践的指導力の育成 ゲームの授業 グループ学習の指導と留意点			
第9回：体育の実践的指導力の育成 表現の授業 情報通信機器の活用とその指導の工夫			
第10回：体育の実践的指導力の育成 陸上運動の授業 運動を分析し伝える力をどのように育成するか			
第11回：体育の実践的指導力の育成 水泳の授業 能力差を活かした授業づくりの方法			
第12回：体育の実践的指導力の育成 ボール運動の授業 グループ活動を通したタブレット端末の活用法			
第13回：体育の実践的指導力の育成 保健の授業 体育の見方考え方を活かした保健の授業			

第14回：模擬授業の振り返り 体育授業の評価の視点と、組織的観察法

第15回：授業全体の振り返りとまとめ 体育の授業研究を通したよりよい授業の探求
定期試験は実施しない。

テキスト

初等体育科教育（白鷗社）上條眞紀夫 小学校学習指導要領解説（東洋館出版社）

参考書・参考資料等

体育指導資料集（文部科学省） まるわかりハンドブック

学生に対する評価

各回のレポート・提出物50%、模擬授業指導案・授業実践50%で評価する

授業科目名： 初等英語科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 畑江 美佳
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・ 外国語		
授業のテーマ及び到達目標 2020 年新学習指導要領 外国語の目標に沿い、指導者の知識とスキルを身に付ける。			
授業の概要 2020年新学習指導要領 外国語のねらいとする、児童への4技能（「聞く」「話す」「読む」「書く」）を基盤とするコミュニケーション能力の育成を育む。そのために、基本となる外国語習得理論や授業づくり等の英語教育実践を学修する。			
授業計画 第1回：外国語活動・外国語の必修化の経緯と目的、理念 第2回：母語と第2言語習得理論 第3回：教師の役割と資質（担任主導、ALTとのTT授業等） 第4回：教科書 Here We Go! 5・6、テキストの役割と活用（国語教育と英語教育の対比含） 第5回：指導計画（年間指導計画、単元計画等立案） 第6回：言語材料と英語4技能の指導 第7回：教材研究①（歌、チャンツ、クイズ、ゲーム、絵本、劇他） 第8回：教材研究②（文構造、正書法、異文化理解、国際交流他） 第9回：英語教授法（効果的な教授法、指導法、特別支援教育外国語活動指導法等） 第10回：教材・教具の活用（ピクチャーカード、ICTの活用法等） 第11回：評価の在り方（Can-doリスト、CEFR、パフォーマンス評価、学習到達評価） 第12回：学習指導案の作成（学習指導案、短時間学習指導計画案） 第13回：授業づくり（学級経営、クラスルームイングリッシュ等） 第14回：模擬授業（教師の師範、DVD視聴、模擬授業） 第15回：外国語教育の展望（小・中・高等学校連携） 定期試験は実施しない。			
テキスト 小学校学習指導要領解説 外国語活動編・外国語編（文部科学省） 小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック（文部科学省） 教科書 Here We Go! 5・6（光村図書）			
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領解説 外国語編（文部科学省）			

学生に対する評価

- ・ ペアやグループ学習での積極性を観る。
- ・ 毎回の課題レポートを通して、学習内の理解度をはかる。
- ・ 教材研究は We Can①②に則した実践的内容とする。
- ・ 授業への参加態度・意欲 50%、課題 50%

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：鶴 恒介
日本国憲法	必修科目	2単位	担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標			
・憲法の基礎にある平和主義、人権、民主主義や立憲主義などの考え方を理解し、説明できる。			
・教育に関するものを中心に、日本国憲法の重要な条文がどのようなことを定めているかを知り、それを説明できる。			
・上記の内容を、正しい用語を使って文章として表現することができる。			
授業の概要			
・日本国憲法について、その背景にある立憲主義や平和主義、人権、民主主義などの考え方および学校教育に係る重要な条文の概要を学ぶ。とりわけ以下の2点を目指して学修する。			
・教員となって将来子どもの教育にたずさわろうとする者として、日本国憲法の平和主義、人権、民主主義などの価値(憲法的価値)や憲法の背後にある立憲主義の考え方を学び、子どもへの教育に生かせるようになることを目指す。			
・日本国憲法には教育に係る条文(例 教育を受ける権利(26条1項))があり国家や教育にたずさわる者についての重要なルールも定めているので、それを知ること、わが国の学校教育に関する法令やその他教育制度について理解するための知識を修得する。			
授業計画			
第1回：憲法を学ぶ意義・憲法とはなにか			
第2回：近代立憲主義、日本国憲法の基本原理			
第3回：平和主義			
第4回：人権の意義と限界			
第5回：法の下での平等			
第6回：精神的自由権総論			
第7回：精神的自由権と学校教育			
第8回：学問の自由・とりわけ教授の自由			
第9回：社会権総論、生存権			
第10回：教育を受ける権利、労働者の保護			
第11回：参政権、国会			
第12回：内閣			
第13回：司法権			
第14回：地方自治			
第15回：財政民主主義と財政議会主義			

テキスト

参考書・参考資料等

- ・初宿正典、大沢秀介、高橋正俊、常本照樹、高井裕之 / 編著 『目で見る憲法 [第6版]』 (有斐閣) 2024年
- ・高見勝利 [編] 『あたらしい憲法のはなし 他二篇』 (岩波現代文庫) 2013

学生に対する評価

授業内試験・期末レポート・毎回の小テストのいずれかで88点～90点、事前学習の提出で10点～12点とし、合計100点。

授業科目名 健康管理と身体活動	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：1 単位	担当教員名：清水 将之
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
科目に含めることが 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 ・現代社会と健康、生涯を通じた健康について学ぶ ・日常における生体現象が健康と疾病の連続性に如何に関わるかを知る。			
授業の概要 健康と疾患の連続性について理解したうえで我々が何気なく過ごす日常生活における食欲・睡眠・生体リズム・ストレス現象等の生体現象を取り上げ、それらが如何に合目的な現象であるかについて理解する。また、身体活動や運動がメンタルヘルスや生活の質の改善、健康の維持・増進・疾病の予防などに効果をもたらしているかについて理解するとともに生活習慣予防やストレス解消の為の基本的な知識と技能について学習する。			
授業計画 第 1 回： ガイダンス 講義の全体目標とそれを達成するための講義の流れ、授業内容の説明（健康と疾病・睡眠・ストレスがもたらす影響・身体運動や運動と生活習慣予防の関係等）、評価方法の説明を行う 第 2 回：健康と疾病の連続性について学ぶ 第 3 回：睡眠による免疫力の衰え等身体に及ぼす影響について学ぶ 第 4 回：食事が健康の維持・増進について如何に関わるかを知る 第 5 回： ストレスがもたらす身体への影響について学ぶ 第 6 回：身体運動や運動が生活習慣予防にどのように効果をもたらしているかを学ぶ 第 7 回：生活習慣予防の為の身体運動・運動のプログラム作成 第 8 回：生活習慣予防の為の身体運動・運動のプログラム発表			
テキスト その都度資料を配布する			
参考書・参考資料等			
学生に対する評価 ・事前学習課題：25 点、小テスト：60 点（4 回ないし 5 回を予定）、授業のリフレクション：15 点（第 1 回目・第 8 回目）			

授業科目名 スポーツと運動科学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：1 単位	担当教員名：福川 裕司 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第6 6 条の6 に定める科目		
科目に含めることが 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 ・健康づくりや体力増進について具体的な基礎知識を知る。 ・トレーニングの原理原則を理解し、対象的に必要な運動プログラム構成の方法を知る。 ・神経系と運動の関係を理解し、神経系の機能維持・改善に必要な運動の分野を知る。			
授業の概要 自己や他者が他者科学的な根拠を踏まえた健康づくりや体力増進についてどのように実現できるかを考え、具体的な行動が出来る事を目的とし、身体の基本知識としてトレーニング理論や身体の仕組みについて理解する。また運動を続けるためにコンディショニング、栄養に関する基礎知識的な知識と技能について学習する。			
授業計画 第1回：ガイダンス 講義の全体目標とそれを達成するための講義の流れ、授業内容の説明（身体の仕組み・トレーニングと栄養の関係性・神経系機能の基礎知識・運動プログラム作成/発表）、評価方法の説明を行う 第2回：身体の仕組みについての基礎知識を学ぶ 第3回：トレーニングがパフォーマンスに及ぼす影響について学ぶ 第4回：トレーニングと栄養の関係性について学ぶ 第5回：加齢に伴う神経系機能低下を予防する運動方法・神経系機能向上に適した運動の種類を学ぶ 第6回：運動プログラムづくり①プログラムに必要な知識を学ぶ 第7回：運動プログラムづくり②ケースに合った運動プログラムを作成する 第8回：運動プログラムづくり③運動プログラムを発表する			
テキスト その都度資料を配布する			
参考書・参考資料等			
学生に対する評価 ・授業への取り組み度・授業期間中に提出を求めるレポートによって評価する ・授業内容に関するリアクションペーパー：10 点、事前事後の学習課題：50 点、発表：40 点、合計 100 点			

授業科目名 コミュニケーション英語Ⅰ (基礎)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：1 単位	担当教員名：木村 郁子 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第6 6 条の6 に定める科目		
科目に含めることが 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
・短い、はっきりとした簡単なメッセージやアナウンスの要点を聞き取れる。(聞)			
・簡潔なテキストの中から特定の情報を取り出すことができる。(読)			
・身近な日々の事柄について、直接的で簡単な情報交換を必要とする通常の課題ならコミュニケーションでできる。(話:やりとり)			
・人物や生活・職場環境、日課などについて、簡単な字句や文を並べて単純な説明ができる。(話:表現)			
・家族、生活環境、学歴、最近の活動について、簡単な句や文を連ねて書くことができる。(書)			
授業の概要			
知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる基本的な英語の運用能力を身に付けることを目的として、英語能力の習熟度別、達成度別による少人数のクラスを編成し、クラス別に準備されたプログラムにより、日常的な英会話を中心とする基礎的な英語コミュニケーション能力の習得を図る。具体的には各ユニットの語彙、文法、表現を学習し、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングをバランスよく学習する。その際、デジタル教材を活用し、音声や映像をふんだんに取り入れる。授業内では、ペアワーク、グループワーク、ロールプレイ等によるアクティブ・ラーニングによって英語での発信力を養い、授業外ではオンライン教材によって事前・事後学習を行う。Google Classroom を活用したクラス別課題を通して、ライティング能力の向上を目指す。			
授業計画			
第1回： オリエンテーション (テキスト、授業の進め方、オンライン登録、評価方法の説明)			
第2回： Unit 1 Meeting People①Vocabulary・Listening & Speaking・Language Focus			
第3回： Unit 1 Meeting People②Grammar・Reading・Writing			
第4回： Unit 1 ユニットテスト・Unit 2 Time to Eat①Vocabulary・Listening & Speaking・Language Focus			
第5回： Unit 2 Time to Eat②Grammar・Reading・Writing			
第6回： Unit 2 ユニットテスト・Unit 3 Living with Technology①Vocabulary・Listening & Speaking・Language Focus			
第7回： Unit 3 Living with Technology②Grammar・Reading・Writing			
第8回： Review 中間まとめ			
第9回： Unit 3 ユニットテスト・Unit 4 Shopping for Clothes①Vocabulary・Listening & Speaking・Language Focus (p. 36)			
第10回： Unit 4 Shopping for Clothes②Grammar・Reading・Writing			
第11回： Unit 4 ユニットテスト・Unit 5 A Helping Hand at Home①Vocabulary・Listening & Speaking・Language Focus			
第12回： Unit 5 A Helping Hand at Home②Grammar・Reading・Writing			
第13回： Unit 5 ユニットテスト・Unit 6 Going Places①Vocabulary・Listening & Speaking			

Language Focus 第14回: Unit 6 Going Places②Grammar・Reading・Writing 第15回: 試験及びフィードバック
テキスト New Connection Book 1、SEIBIDO、ISBN 978-4-7919-3411-9 総合英語 be 4th Edition English Grammar 24 (いゐずな書店) ISBN: 978-4-86460-807-7
参考書・参考資料等
学生に対する評価 ・ユニットテスト・授業内試験 (60 点) オンライン事前・事後学習 (20 点) クラス別課題 (20 点)

授業科目名 コミュニケーション英語Ⅱ (応用)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：1 単位	担当教員名：木村 郁子 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第6 6 条の6 に定める科目		
科目に含めることが 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
・身近な話題について、明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解することができる。(聞) ・自分の専門分野や興味の範囲内のテキストなら十分に主題を理解できる。(読) ・身近で日常生活に直接関係のあることや、個人的な関心事について、準備なしで会話に入ることができる。 (話:やり取り) ・意見、計画、行動に対する理由や説明を簡潔に示すことができ、自分の感想・考えを表現できる。(話:表現) ・自分が関心を持つ身近な話題について、複雑ではないが詳しく記述することができる。(書)			
授業の概要			
知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる基本的な英語の運用能力を身に付けることを目的として、英語能力の習熟度別、達成度別による少人数のクラスを編成し、クラス別に準備されたプログラムにより、日常的な英会話を中心とする応用的な英語コミュニケーション能力の習得を図る。具体的には各ユニットの語彙、文法、表現を学習し、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングをバランスよく学習する。その際、デジタル教材を活用し、音声や映像をふんだんに取り入れる。授業内では、ペアワーク、グループワーク、ロールプレイ等によるアクティブ・ラーニングによって英語での発信力を養い、授業外ではオンライン教材によって事前・事後学習を行う。Google Classroom を活用したクラス別課題を通して、ライティング能力の向上を目指す。			
授業計画			
第1回：Unit 7 Not Feeling So Good①Vocabulary・Listening & Speaking・Language Focus			
第2回：Unit 7 Not Feeling So Good②Grammar・Reading・Writing			
第3回：Unit 7 ユニットテスト・Unit 8 The Big Screen①Vocabulary・Listening & Speaking・Language Focus			
第4回：Unit 8 The Big Screen②Grammar・Reading・Writing			
第5回：Unit 8 ユニットテスト・Unit 9 How Do You Feel?①Vocabulary・Listening & Speaking・Language Focus			
第6回：Unit 9 How Do You Feel?②Grammar・Reading・Writing			
第7回：Review 中間まとめ			
第8回：Unit 9 ユニットテスト・Unit 10 All in Good Fun①Vocabulary・Listening & Speaking・Language Focus			
第9回：Unit 10 All in Good Fun②Grammar・Reading・Writing			
第10回：Unit 10 ユニットテスト・Unit 11 Game Time①Vocabulary・Listening & Speaking・Language Focus			
第11回：Unit 11 Game Time②Grammar・Reading・Writing			

第12回: Unit 11 ユニットテスト・Unit 12 Rain or Shine①Vocabulary・Listening & Speaking・
Language Focus

第13回: Unit 12 Rain or Shine②Grammar・Reading・Writing

第14回: Unit 12 ユニットテスト・**Review** これまでのまとめ

第15回: 試験及びフィードバック

テキスト

New Connection Book 1、SEIBIDO、ISBN 978-4-7919-3411-9

総合英語 be 4th Edition English Grammar 24 (いゐずな書店) ISBN: 978-4-86460-807-7

参考書・参考資料等

学生に対する評価

・ユニットテスト・授業内試験 (60 点) オンライン事前・事後学習 (20 点) クラス別課題 (20 点)

授業科目名 情報リテラシー	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：1 単位	担当教員名：有賀 美恵子
			担当形態：クラス分け・複数
科 目	教育職員免許法施行規則第6 6条の6に定める科目		
科目に含めることが 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
・データサイエンスの基礎知識とリテラシーを身につける。 ・データを適切に読み解く力を養う。 ・データを適切に説明する力を養う。			
授業の概要			
データサイエンスの基礎知識とリテラシーである、文献やデータを読み解き、分析、考察、表現するリテラシーを身に付ける。専門教育で利用するデータの分析結果の表現や考察に必要な基礎技能を身に付け、日常生活や社会の場で有効に利活用できることを目標とする。 授業では、データの分析や考察、表現し読み解くスキルを身に付け、文書処理及び表現ツールを用いた演習を通して、データとツールの利活用を学ぶ。文書処理の知識とスキルの習得を図り、分析や考察のための基礎的な文書表現形式を理解する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス、大学のPCの基本知識と利活用 第2回：大学のインターネット環境の基本知識と利活用 第3回：ネットリテラシーとファイル管理 第4回：文書処理の基本知識とその操作 第5回：プレゼンテーション文書の作成 第6回：プレゼンテーション文書の形式と表現 第7回：データの種類と可視化、データの読み解き 第8回：データの種類と図表表現、図表を用いた文書表現 第9回：レポート文書の入力と保存 第10回：レポート文書の作成の基礎 第11回：レポート文書の印刷と演習 第12回：レポート文書の形式と表現 第13回：レポート文書の編集 第14回：文書処理の総合演習 第15回：まとめと今後の展開			
テキスト			
・ISBN：9784320124295、『情報活用とアカデミック・スキルOffice2016』松山恵美子：黄海湘，共立出版 ・FOM出版『情報リテラシー』テキスト			
参考書・参考資料等			
・『データサイエンス入門シリーズ 教養としてのデータサイエンス』北川・竹村編、講談社、2021			
学生に対する評価			
・毎回の出欠はレスポンスシートで確認し、その内容も評価の材料とする。 ・課題発表 30%、期末試験 30%、リテラシー小テスト 20%、レスポンスシート 10%、その他課題提出 10%			

授業科目名 データリテラシー	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：1 単位	担当教員名：西山 博
			担当形態：クラス分け・複数
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
科目に含めることが 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目		
授業の到達目標			
・データサイエンスの基礎技能とその利活用を学ぶ。 ・データを適切に読み解く力を養う。 ・データを適切に説明する力を養う。 ・データを扱うための力を養う。			
授業の概要			
実データとデータ解析ツールを用いた演習を通して、データを読み、処理し、説明するというデータサイエンスの基礎知識と利活用を学ぶ。専門教育で利用する集計や可視化といった基本的なデータ分析の基礎技能を身に付け、日常生活や社会の場で有効に利活用できることを目標とする。 授業では、データを分析や考察、表現し読み解くスキルを身に付け、表計算の知識とスキルの習得を図り、その可視化のための図表表現を理解するなど、データを扱うための力を身に付ける。			
授業計画			
第 1 回：ガイダンス、実データの読み解きと処理の基本とその操作			
第 2 回：データの入力と数式の基礎			
第 3 回：データを読み解く数式と関数			
第 4 回：データの分類と表の編集			
第 5 回：データ分析の総合演習(1)			
第 6 回：データの並び替えと集計、データベースの利用			
第 7 回：複数データの操作			
第 8 回：データ分析の総合演習(2)			
第 9 回：関数の基礎(1)			
第 1 0 回：関数の基礎(2)			
第 1 1 回：グラフを用いたデータの可視化と説明表現			
第 1 2 回：データ分析の総合演習(3)			
第 1 3 回：文書処理とデータ分析の総合演習(1)			
第 1 4 回：文書処理とデータ分析の総合演習(2)			
第 1 5 回：まとめと今後の展開			
テキスト			
・ISBN：9784320124295、『情報活用とアカデミック・スキル Office2016』松山恵美子・黄海湘，共立出版 ・FOM 出版『情報リテラシー』テキスト			
参考書・参考資料等			
・『データサイエンス入門シリーズ 教養としてのデータサイエンス』北川・竹村編、講談社、2021			
学生に対する評価			

- ・毎回の出欠はレスポンスシートで確認し、その内容も評価の材料とする。
- ・課題発表 30%、期末試験 30%、リテラシー小テスト 20%、レスポンスシート 10%、その他課題提出 10%

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 江津 和也
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標			
教育活動全体を規定する土台として、教育の本質や理念、教育の目的などを理解し教育を人間形成という広い視野の下に捉えられるようになることを目指す。また適切な教育活動を行えるようになるために、教育活動を成り立たせる条件など基礎的な知識を身につけることを目指す。			
授業の概要			
教育の歴史や教育思想の展開をたどり、現代における教育理念の位置づけを明確にする。そして、子どもの発達を援助し促すための基本的考え方や教育実践のあり方を論じると共に、現代における教育問題を明確にし、教師としてどのようにそれらの問題と向き合うかを考える。			
授業計画			
第1回：教育の意義			
第2回：教育の目的			
第3回：人間の発達と教育			
第4回：西洋の教育の歴史（古代～中世）			
第5回：西洋の教育の歴史（近・現代）			
第6回：日本の教育の歴史（古代→近世）			
第7回：日本の教育の歴史（近・現代）			
第8回：教育の思想（古代～中世）			
第9回：教育の思想（近・現代）			
第10回：教育課程と学習指導要領			
第11回：教育の方法と評価			
第12回：教育制度、教育行政と教育法規の基礎			
第13回：教育の経営			
第14回：生涯学習社会と教育			
第15回：まとめ（授業内試験を含む）			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
江津和也『教育原理 教育の基礎を学ぶ』大学図書出版			
参考書・参考資料等			

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

レポート30パーセント、授業内試験70パーセント

授業科目名： 教職概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田中 洋 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 教育や保育の動向を踏まえ、教職や保育職の社会的意義及び教員や保育者の役割や職務内容、求められる資質能力等についてその全体像を理解し、教職や保育職への意欲を高め、自己の適性と課題を判断する力を身に付ける。			
授業の概要 子どもたちを取り巻く環境と、その中で教育や保育が果たす役割とその社会的意義について概説するとともに、教員や保育者とはどういう存在なのか、教職・保育職の意義と役割、教員・保育者の職務内容、求められる資質能力を中心に講義する。また、授業全体を通して、生涯に渡る自己の専門性の向上と、関係者との連携の下、組織的に諸課題に対応することの重要性を認識する機会とする。			
授業計画 第1回：教職・保育職への道：教員とは、保育者とは、免許と資格、教員採用・公務員採用 第2回：教職・保育職の意義：教育・保育制度の歴史、教育・保育の目的、社会的意義 第3回：教員・保育者の役割（1）：信頼される教員・保育者、目指す教員像・保育者像 第4回：教員・保育者の役割（2）：子どもを守る、自己実現、生きる力の育成 第5回：危機管理・安全教育：自然災害に備える危機管理と安全教育のあり方 第6回：教員・保育者の職務：学校組織・保育所組織と職務内容、チーム学校、チーム保育 第7回：教員・保育者の服務と身分保障：服務、分限、懲戒、研修 第8回：教員・保育者に求められる資質能力（1）社会性・人間性・専門性 第9回：教員・保育者に求められる資質能力（2）家庭や地域社会との連携 第10回：教員・保育者に求められる資質能力（3）体罰問題、指導力不足・不適格教員 第11回：今日の教育・保育課題（1）いじめ、不登校、孤立育児、子育て不安、虐待 第12回：今日の教育・保育課題（2）育児相談、就学相談、教育相談、発達障害児への対応 第13回：今日の教育・保育課題（3）教育改革、教育要領、学習指導要領、日本の教育の国際比較 第14回：まとめと今後の課題（1）授業内試験、福祉マインドの育成、進路選択 第15回：まとめと今後の課題（2）4年間の学び、フィールドスタディ、教育実習、保育実習 定期試験は実施しない。			
テキスト 教職概論～福祉マインドを持った教員を目指して～（加藤哲著、白鷗社）			

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

提出課題・レポート（30％）、授業内試験（70％）

授業科目名： 教育行政学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 矢幅 清司
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連 携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
我が国の公教育の基盤は、学校等における児童・生徒への優れた教育実践であるが、その実 現には教育政策の策定や教育制度、教育環境（条件）の整備等を担う教育行政の役割が極めて 重要であることを認識するとともに、学校現場の諸課題の解決には教育行政に関する基礎的な 知識が必要であることを理解する。			
授業の概要			
我が国の教育制度はどのような原理と法制により組織されているか、その制度を管理するた めに国や地方自治体の教育行政はどのように組織されているか、学校の組織編制、教育課程の 編成、教育職員の身分・服務研修等の仕組みはどのように法的に定められているのかなど、我 が国の教育制度と教育行政の概要について理解する。また、教育改革の進捗状況や我が国の教 育政策、学校教育をめぐる今日的課題について認識するとともに、学校と地域の連携や学校安 全への対応に係る基礎的な知識を身に付ける。			
授業計画			
第1回：授業ガイダンス、教育政策、学校教育と教育行政			
第2回：我が国の教育行政の史的展開			
第3回：我が国の教育改革のあゆみ			
第4回：我が国の学校制度と諸外国の教育事情			
第5回：教育行政を支える法体系（1）日本国憲法と教育基本法について			
第6回：教育行政を支える法体系（2）学校教育法とその他の法令について			
第7回：中央教育行政組織のしくみと機能			
第8回：地方教育行政組織と教育委員会制度			
第9回：学校教育と教育行政機能（学校の設置、学級編制、組織編制、職員会議）			
第10回：教育内容行政（学習指導要領、教育課程の編成、教科用図書の選定）			
第11回：教育職員の種類・身分・服務・研修・免許制度			
第12回：学校教育をめぐる今日的課題と教育行政の在り方			
第13回：学校教育における危機管理や安全教育の在り方			
第14回：開かれた学校づくりと保護者や地域との連携・協働の在り方			
第15回：授業内試験及び試験内容の解説、講義のまとめ			
定期試験は実施しない。			

テキスト なし
参考書・参考資料等 公教育と教育行政 -教職のための教育行政入門- 曾我雅比呂 大学教育出版
学生に対する評価 授業態度（20%）、提出物（30点）、授業内試験（50点）

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 齊藤 崇
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
心身の発達・学習の過程や学習支援、および障がいのある子どもの理解と支援の基礎的知識を身につける。子どもの教育において学習や生活面の指導を効果的に行うための教育心理学的な理論と方法を理解する。			
授業の概要			
よりよい教育の担い手を目指して、教育実践に役立てるための教育心理学の基礎的な知識を学習する。人が成長し、学ぶことを支える学問である教育心理学について学び、よりよい教育のあり方を考え、事例からの学びを通して実践に結びつける。教育を行う際に基礎となる「発達」「学習」「意欲」「個性化」「社会化」「適応」「評価」について学ぶ。また、「子どもの問題行動と発達障がい」「教師の心理」など、最近の学校教育の中で関心の集まっている問題についても取り上げる。			
授業計画			
第1回：教育心理学の成立			
教育心理学の学問の成り立ちを理解し、教育心理学の研究領域を学ぶ。			
第2回：人間発達の基礎			
発達理論と教育の効果について考え、教育心理学の意義を理解する。発達理論を学び、自身の発達観、教育親について考える。			
第3回：人間発達の様相			
ライフコースにおける発達を理解し、教育と認知発達、社会的な発達などについて考える。			
第4回：学習と記憶			
学習と記憶、思考について学び、教育への活用について考える。			
第5回：学習指導			
学習者の能動性と学習を理解し、学習の理論と指導形態と学習について学ぶ。			
第6回：動機づけ			
動機づけの理論を理解し、教育における動機づけにかかわる援助について学ぶ。			
第7回：知能と学力			
知能や知能検査について学識知能と学力について理解する。			
第8回：学習の評価			
教育測定や教育評価を理解し、教育測定の方法や教育心理統計について学ぶ。			

第9回：教育心理学の研究法

教育心理学での研究法の実際を理解し、教育心理学のアプローチを学ぶ。

第10回：学級集団における指導

学級指導に活用できるサイコエデュケーションや学級集団の指導や理解の仕方について学ぶ。

第11回：パーソナリティと適応

パーソナリティの理論と方法について理解し適応過程とパーソナリティの変容について学ぶ。

第12回：児童期の心理的問題

児童期に教育現場で直面する心理的問題について理解する。

第13回：教育相談と生徒指導

教育相談と生徒指導の位置づけについて理解し、実際について学ぶ。

第14回：発達障がいと特別支援

発達障がいや特別支援教育と教育心理学の関係について学ぶ。

第15回：教師の役割と成長

教師の成長について教育心理学から考え、教師の自己理解、教師の役割、成長について学ぶ。

定期試験は実施しない。

テキスト

齊藤崇 2018 1月『教育心理学』大学図書出版

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

課題提出状況、授業理解度テストを総合的に評価する。

提出課題40%、授業理解度テスト60% 各授業回の最後に記入する受講レポートや提出課題は次回の授業までに確認し、授業内に全体に対するフィードバックを行う。小テストについては、試験後に解答に関わる教員評価視点を解説する。

授業科目名： 発達心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 宮本(高橋) 桃英
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
人の心や行動が生物学的要因と社会的要因との相互作用の中で生涯を通して発達することや、各発達段階での課題や危機、及び重要な心の機能やその成長プロセスについて解説する。胎児期から老年期にかけての発達段階ごとの心身の特徴を理解することで、受講生自身の児童時代を振り返ることによる自己理解や、教育対象である乳幼児・児童・生徒を含めた、他の世代の人々への関心や理解を深める。			
授業の概要			
胎児期から老年期までの生涯において、認知、言葉、情緒、自己意識、思考能力、対人関係などの各機能の発達の道筋、及びこれらが人の心や行動にどのように影響するかを概説する。さらに、発達上での臨床的問題の理解と支援について概説する。			
授業計画			
第1回：イントロダクション。生涯発達とは何か。代表的な発達理論の紹介。授業の進め方について。			
第2回：発達における遺伝と環境、及び個性（パーソナリティ）の発達。			
第3回：胎児期や出産までの道筋、及び出生前診断の現状と課題。			
第4回：乳児期の知覚の発達や社会性の芽生え。			
第5回：アタッチメントの発達とその個人差：児童期以降の心の安定との関連性。			
第6回：児童の言葉及び読み書きの発達。児童にとっての遊びの意味。			
第7回：児童の自己の発達。自己感覚、自己概念の発達の道筋。			
第8回：児童の他者理解と社会性発達。友人関係や集団の特徴。			
第9回：児童の学習に関わる思考や記憶の発達、動機づけ、及び認知発達に合わせた学習評価。			
第10回：児童期から青年期の発達課題や心理的特徴。友人関係や集団の特徴。認知発達に合わせた学習評価。			
第11回：青年期から成人前期の発達課題や心理的特徴。			
第12回：成人中期及び高齢期の発達課題や心理的特徴。			
第13回：発達障害の児童の現状とその支援。			
第14回：児童虐待の現状とその支援。			
第15回：授業内試験および試験内容の解説と、発達とは何かについての総復習。			
定期試験は実施しない。			
テキスト			

「発達心理学－生涯にわたる心の発達－」 金丸智美著 クオリティケア 2018年

参考書・参考資料等

「個性はどう育つか」 菅原ますみ 大修館書店 「おさなごころを科学する」 森口佑介 新曜社

「アタッチメント－生涯にわたる絆－」 数井みゆき・遠藤利彦（編著）ミネルヴァ書房など

学生に対する評価

授業内試験（60％）、事前事後提出課題・リアクションペーパー内容・授業態度（40％）

授業科目名： 特別支援教育の理解 と方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 松浦 俊弥
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性および心身の発達を理解する。 ・ 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。			
授業の概要			
インクルーシブ教育システムが推進され、今後は幼稚園、小中学校、高校等の普通学級や特別支援学級に在籍する「特別の支援を必要とする」子どもたちがさらに増加していく。新学習指導要領では「特別の配慮を必要とする」子どもを障害児に限定せず、海外から帰国したり日本語の習得に困難があったり、または不登校だったりする幼児、児童及び生徒もその対象としている。このように社会は多様化し、より一人一人に応じた教育が重視され、さらには多様な幼児児童生徒に対する教育手段としてユニバーサルデザインを取り入れた教科指導なども実践され始めている。この授業では主に障害がある幼児、児童及び生徒への理解や支援方法、特別支援教育の意義等を学んでいくが、教育課題を抱えるその他の子どもへの対応についても学んでいく。			
授業計画			
第1回：特別支援教育の意義・目的			
第2回：特別支援教育の歴史・現状と課題			
第3回：特別支援教育の制度（特別支援学校、特別支援学級・通級による指導）			
第4回：特別支援教育の教育課程（ユニバーサルデザイン教育ほか）			
第5回：インクルーシブ教育システムと合理的配慮			
第6回：特別支援学校が対象としている障害（知的障害以外）			
第7回：特別支援学級が対象としている障害（知的障害・自閉症および情緒障害以外）			
第8回：通級による指導の対象となる障害（発達障害以外）			
第9回：発達障害について			
第10回：知的障害について			
第11回：自立活動について			
第12回：個別の指導計画と個別の教育支援計画			
第13回：特別な支援における校内体制の確立と関係機関、家庭との連携について			
第14回：障害のない特別な教育的ニーズが必要な幼児、児童及び生徒			
第15回：特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒と福祉（障害福祉・児童福祉の観点から）			

定期試験は実施しない。

テキスト

「ライフステージの発達障害論」北樹出版 松浦俊弥

参考書・参考資料等

「教育支援の手引き」文部科学省

各回、資料としてプリントを配布。

学生に対する評価

・毎回の授業内小テスト（20％）、レポート（20％）、第15回目実施の授業内試験（60％）

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 前 正七生 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
(1) 幼稚園教育要領・学習指導要領の性格及びその位置付けと教育課程編成の目的について理解する。			
(2) 幼稚園教育要領（及び保育所保育指針）、学習指導要領の変遷と主な改訂内容並びにその社会的背景や教育課程が社会において果たしている役割や機能を理解する。			
(3) 教育課程編成の基本原則を理解し、各領域を横断して教育内容を選択・配列する具体的方法を身につける。			
(4) 初等教育における単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野から、また幼児や幼稚園及び保育所、地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性を理解した上で、多様な観点から実践的な指導計画案を作成することができる。			
(5) 幼稚園教育要領・学習指導要領に規定されるカリキュラム・マネジメントを行うことの意義や重要性を理解し、カリキュラム評価の基礎的な考え方を基にその具体的な方法を身につける。			
授業の概要			
(1) 学校教育、特に幼稚園や保育所において教育課程が有する役割や機能、並びに意義を理解する。			
(2) 教育課程編成の基本原則、初等教育並びに幼稚園等の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。			
(3) 領域・年齢をまたいで縦断的且つ横断的にカリキュラムを把握し、初等・幼児教育における教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。			
授業計画			
第1回：(1) オリエンテーション：教育課程を理解するための基礎事項 (2) 学習指導要領、幼稚園教育要領と保育所保育指針の基本：育みたい資質・能力と「10の姿」			
第2回：(1) 教育課程とは何か、教育計画の目的と社会的意義 (2) 教育課程・「全体的な計画」の意義とその必要性に関する具体的理解			
第3回：(1) 学習指導要領、幼稚園教育要領・保育所保育指針の改訂とその歴史的変遷 (2) 教育課程の改訂内容と社会的背景（評価論、学習指導要領との連関）			
第4回：(1) 教育課程編成に関する基礎的事項と子ども理解の基本 (2) 教育課程・「全体的な計画」を編成するための条件及び配慮すべき事項			

第5回：幼稚園教育要領の理解と教育課程の編成

- (1) 幼稚園教育要領・保育所保育指針と教育課程・「全体的な計画」の連関に関する基礎理解
- (2) 教育内容の選抜と配列・評価

第6回：指導計画の作成と方法

- (1) 乳幼児の発達や各年齢に応じた保育の内容・ねらいや記録の意義、
- (2) 指導計画の編成やカリキュラムマネジメントに関する基礎的事項の理解

第7回：小学校・幼稚園における教育課程と指導計画の実際①

長期指導計画の種類と特性、作成時の配慮事項に関する理論及び教育課程とその連関について。

第8回：小学校・幼稚園における教育課程と指導計画の実際②

- (1) 短期指導計画の種類と特性、作成時の配慮事項に関する理論
- (2) 中・長期指導計画と短期指導計画の連関についての理解。

第9回：乳幼児の特性と指導計画の作成①

0～2歳（3歳未満）児の指導計画案についての理解：（日案・部分指導案をグループ単位で作成）

第10回：乳幼児の特性と指導計画の作成②

3歳児～4歳児の指導計画案（領域）についての理解：（日案・部分指導案をグループ単位で作成）

第11回：幼児の特性と指導計画の作成③（10）

5歳児の指導計画案（領域）についての理解：（日案・部分指導案）をグループ単位で作成）

第12回：児童の特性と指導計画作成④

小学校低学年の指導計画案（教科）についての理解：（日案・部分指導案をグループ単位で作成）

第13回：指導計画の作成と実践・評価

第8～12回で作成した指導計画についてグループ単位による実践及び自己・他者双方による評価。

第14回：多様な社会の到来と新しい教育課程

- (1) 障害児や異年齢保育、小学校・地域社会との連携を念頭に置いた指導計画、
- (2) プロジェクト型の学習等に関する理論と実際について

第15回：新時代の指導計画の評価と教育課程

- (1) 認定こども園等これからの時代に求められる教育課程
- (2) 新たな時代の評価（多面的評価、パフォーマンス評価等）に関する理論について

定期試験は実施しない。

テキスト

「教育課程」 山崎準二 編 学文社

参考書・参考資料等

平成29年版小学校学習指導要領総則編 『幼稚園教育要領 保育所保育指針』 チャイルド本社

学生に対する評価

以下を総合して評価する。

①授業時の取り組み 20点

②毎時の課題レポート 20点

③授業内試験 60点

※その他、適宜加点・減点あり。（指導案作成、レポート、課題未提出など）

授業科目名： 道徳の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小林 秀樹
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法		
授業のテーマ及び到達目標			
道徳の存在意義や原理、子どもの発達段階等への理解を踏まえ、学校における道徳教育およびその要となる「特別の教科 道徳」（以下「道徳科」）の目標や内容、指導計画等について理解する。また、道徳科における教材研究および学習指導案の作成、効果的とされる指導法等について学ぶとともに、模擬授業の実施および振り返りを通して実践的指導力を身に付ける。			
授業の概要			
この授業は、人間が道徳的よさに向かう存在であるとの前提のもと、道徳を指導するための理論的理解や実践的指導力の育成を目標とする。道徳の問題は極めて日常的なものであるが、一方では人間観や世界観、また自己の確立にもつながっているものである。授業では、教材研究を通じた内容項目の理解を重視するとともに指導案作成ならびに模擬授業の実践を通じ、学生自身が道徳的価値について理解し、児童生徒の実態を踏まえた指導を行えるよう、また、学生が相互に人間としてのよりよいあり方・生き方を追求し合えるようになることを目指す。			
授業計画			
第1回：道徳とは何か			
第2回：子どもの成長と道徳性の発達			
第3回：戦前の道徳教育			
第4回：戦後の道徳教育と現代社会における課題			
第5回：学習指導要領の具体的内容―道徳教育と道徳科―			
第6回：学習指導案作成の視点			
第7回：道徳科授業を理解する(1)「自分自身との関わり」			
第8回：道徳科授業を理解する(2)「人との関わり」			
第9回：道徳科授業を理解する(3)「集団や社会との関わり」			
第10回：道徳科授業を理解する(4)「生命や自然、崇高なものとの関わり」			
第11回：道徳科授業を理解する(5) 多様な指導法と評価の問題			
第12回：道徳の授業づくり(1)導入の工夫 模擬授業の実施と相互評価①			
第13回：道徳の授業づくり(2)展開の方法 模擬授業の実施と相互評価②			
第14回：道徳の授業づくり(3)まとめと評価 模擬授業の実施と相互評価③			
第15回：授業の確認とまとめ―道徳教育の意義と教師の役割―			

定期試験は実施しない。

テキスト

中山幸夫・小林秀樹編『ともに学ぶ道徳教育-基礎理論から授業デザインまで-』八千代出版株式会社

参考書・参考資料等

平成29年小学校学習指導要領・小学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」

平成29年中学校学習指導要領・中学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」

高等学校学習指導要領・学習指導要領解説

学生に対する評価

事前事後学習への取り組み(50%)、学習指導案および改善レポート(25%)、授業内試験(25%)により総合的に評価する。

シラバス

授業科目名：総合的な学習の時間と特別活動の指導法		教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：山西哲也
				担当形態：単独
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等		・ 総合的な学習の時間の指導法 ・ 特別活動の指導法		
授業の到達目標及びテーマ				
学校教育活動全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や能力を身に付ける。 総合的な学習の時間で求められる各教科等で育まれる味方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成及び具体的な指導の仕方、ならびに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。				
授業の概要				
・ 特別活動の意義、目標及び内容を理解する。 ・ 特別活動の指導の在り方を理解する。 ・ 総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する。 ・ 総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付ける。 ・ 総合的な学習の時間の指導と評価の考え方及び実践上の両移転を理解する。 ・ 課題発表や討議等を取り入れて授業を展開する。 ・ 講義中の意見発表が求められる。				
授業計画				
第1回：特別活動の目標と内容及び位置づけ、各教科との関連ならびに教育課程全体で取り組む指導の在り方 第2回：学級活動の特性、目標及び内容と話し合い活動、意思決定、集団活動の意義や指導の在り方 第3回：児童会活動の特性、目標及び内容と指導法の理解 第4回：クラブ活動の特性、目標及び内容と指導法の理解 第5回：学校行事の特性、目標及び内容と指導法の理解 第6回：安全教育の内容と指導法の理解 第7回：特別活動の学習指導案の理解と作成 第8回：総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割 第9回：総合的な学習の時間の目標及び各学校において定める目標ならび内容を定める際の考え方や留意点の理解 第10回：総合的な学習の時間の年間指導計画の重要性とその理解 第11回：総合的な学習の時間の単元計画の重要性とその理解 第12回：思考ツールの理解と活用 第13回：総合的な学習の時間の学習指導及び体制づくり、特別活動の体制づくり（家庭・地域住民や関係諸機関との連携を含む）の理解 第14回：特別活動の評価・改善活動の理解、総合的な学習の時間の評価の方法及び留意点の理解 第15回：ICT 機器の活用 定期試験は実施しない				

テキスト

小学校学習指導要領解説 特別活動編（平成 29 年告示 文部科学省）

小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（平成 29 年告示 文部科学省）

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領，その他，資料を授業において配布する。

学生に対する評価

課題 30%，レポート試験 50%，講義中の議論への発言 20%

授業科目名： 教育の方法と技術（ 情報通信技術の活用 を含む。）		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 青木 一
				担当形態：単独
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標				
これからの社会を主体的に生きる子供を育てる教師の実践的教育方法を理解し、基礎的な指導技術を身に付けるとともに、多様な視点を踏まえた学習指導案を作成できる。また、情報通信技術の活用の意義と理論をもとに、学習指導や校務における効果的な活用方法を理解し、各教科の特性に応じて、児童生徒に情報活用能力を育成するための基礎的な指導法を身に付ける。 ○教育方法についての基礎的理論やその実践を理解している。 ○幼稚園の保育と小学校の授業について、その特性や方法、評価について理解し、学習指導案作成等に活用できる。 ○反省的实践家として実践や学習指導案の検討を通じて教師の成長理論を理解し、自身を対象化して論じる重要性に気付くことができる。 ○社会的背景の変化、学び方の多様化、それに伴う授業改善や校務の効率化などICTの活用の意義を理解している。 ○情報活用能力育成について基礎的な指導方法を身につける。				
授業の概要				
幼稚園と小学校の授業理論、具体的な教育方法（学習指導案作成・検討を含む）、評価の意義と方法について学ぶとともに、ICTの実践的活用方法やその意義について取り上げて学ぶ。最後に反省的实践家としての教師の成長理論を理解し、自身を対象化して振り返ることの重要性を学ぶ。				
授業計画				
第1回：ガイダンス 授業の概要と進め方 評価方法と評価基準の説明				
第2回：教育方法の理論と実践				
第3回：授業理論と教育方法①人間観・教育観、及び学習集団理論と実践について学ぶ。				
第4回：授業理論と教育方法②個別最適な学びと協働的な学びの実現や、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のため、情報通信技術の活用や意義と在り方について学ぶ。				
第5回：授業理論と教育方法③幼稚園・小学校の教育方法、幼児期・小学校の特性と教師の役割について知り、それぞれの指導技術（ICT機器を活用した指導技術を含む）について学ぶ。				

第6回：評価の意義・目的・方法（幼児・児童の児童理解に基づく見取り等）を理解し、学習履歴などの教育データを活用して指導や学習評価に活用することや教育情報セキュリティの重要性について学ぶ。

第7回：教育の情報化とICT①幼稚園・小学校におけるICT機器の活用実態とその意義、及びICT活用方法について、遠隔・オンライン教育の意義や関連するシステム及び統合型校務支援システムを含む情報通信技術を効果的に活用した校務の推進の在り方など、望ましい学習環境と校務の効率化の視点から学ぶ。

第8回：教育の情報化とICT②情報活用や、著作権・個人情報の取り扱いについて理解し、各教科等において、横断的に育成する情報活用能力（情報モラルを含む。）について、具体的な事例から学ぶ。

第9回：教育の情報化とICT③授業を主体的・協働的・探究的に学べる教育クラウドプラットフォームやアプリケーションについて理解し、活用方法について学ぶ。ICT支援員等の外部人材や外部機関等との連携の在り方、学校におけるICT環境の整備について学ぶ。

第10回：教育の情報化とICT④特別の支援を必要とする児童生徒に対する情報通信技術の活用の意義と活用にあたっての留意点を学ぶ。

第11回：教育の情報化とICT⑤各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法について学び、児童に情報通信機器の基本的な操作方法を身につけさせる指導法について体験的に学ぶ。

第12回：学習指導案①基礎的な学習指導理論を踏まえ、学習指導案の作成（ICT活用を含む）について学ぶ。

第13回：学習指導案②基礎的な学習指導理論を踏まえ、目標や学習場面に応じた情報通信技術を効果的に活用した指導事例（デジタル教材の作成・利用を含む。）や基礎的な指導方法について学ぶ。

第14回：研究授業と教師の成長①ICTを活用した学習指導案による模擬授業、全方位カメラやVTRを活用した模擬授業を実践し、リフレクションの方法を学ぶ。

第15回：研究授業と教師の成長②模擬授業を通して授業参観の視点を学び、本講義のまとめとする。定期試験は実施しない。

テキスト

指定図書はなし。授業随時、必要な資料を事前配布する。

参考書・参考資料等

「学習指導要領小学校編」「小学校学習指導要領解説 総則編」

「幼稚園教育要領」「幼稚園教育要領解説」

学生に対する評価

事前レポート・リフレクション小論文40点、課題レポート30点、小テスト30点で合計100点とする。
。S：100～90、A：89～80、B：79～70、C：69～60、D：60未満

授業科目名： 生徒・進路指導の理論と方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田中 洋
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論と方法		
授業のテーマ及び到達目標			
生徒指導が、問題行動を起こした生徒のみならず、準問題行動域の生徒及び一般生徒に対して学校教育活動全体を通じて援助・指導していくものであることを理解するとともに、生徒の発達や今日的な問題を認識し、生徒指導の意義と方法について理解し、実践的方法を獲得することを目指す。また、教育課題の動向を把握し、生徒指導上教員に求められる役割を理解した上で、チーム学校の視点から保護者、地域住民、関係諸機関との連携した生徒指導の重要性について理解し、その実践的方法を獲得することを目指す。他方、進路指導の在り方について、キャリア教育の視点に立った授業改善や評価改善の推進、ガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な進路指導の実践的方法を獲得することを目指す。			
授業の概要			
以下の8点に重点を置いて講義を展開する。			
1. 生徒指導の意義や役割			
2. 組織的な生徒指導の重要性と生徒指導体制と教育相談体制の基本的理解			
3. 生徒全体に対する生徒指導・進路指導、キャリア教育の視点に立った指導の在り方			
4. 生徒指導に関わる教育諸課題に対する基本的理解			
5. 個別の課題を抱える生徒に対する生徒指導・進路指導、キャリア教育の視点に立った指導の在り方			
6. 進路指導・キャリア教育の意義や原理			
7. キャリア・カウンセリングの基本的理解			
8. 生徒指導・進路指導（キャリア教育）実践のための組織的な校内体制と関係諸機関との連携に対する基本的理解			
授業計画			
第1回：生徒指導理論－生徒指導の意義と役割及び生徒指導上の教員組織・組織的指導の意義－			
第2回：校則の意義と関連法令に基づく生徒指導の在り方			
第3回：体罰をめぐる関連法令の理解と生徒指導の在り方			
第4回：生徒に対する懲戒及び性行不良に基づく出席停止と関連法令に基づく生徒指導の在り方			
第5回：いじめの定義と類型化及びいじめ防止対策推進法に基づく生徒指導の在り方			
第6回：不登校の定義と不登校児童・生徒に対する生徒指導の在り方			

第7回：生徒の携帯・ネット利用に伴う加害・被害及び少年非行の動向と生徒指導の在り方

第8回：児童虐待問題の動向と関連法令に基づく生徒指導の在り方

第9回：学校安全の理解と関連法令に基づく生徒指導の在り方

第10回：キャリア教育の変遷と推進施策の展開

第11回：進路指導・キャリア教育実践をめぐる理論－教育課程上の位置付け、
教育活動全体を通じたキャリア教育の指導の在り方とガイダンス機能を生かした指導方法－

第12回：職業に関する体験活動をめぐるカリキュラム・マネジメントの在り方

第13回：キャリア・カウンセリングの基礎理解とスキル－生涯を通じたキャリア形成に要する自己
評価の意義及びポートフォリオ活用の在り方と生徒が抱える進路指導・キャリア教育上の
課題と指導の在り方－

第14回：進路指導（キャリア教育）実践のための校内体制と関係諸機関との連携の在り方

第15回：授業内試験および試験内容の解説

定期試験は実施しない。

テキスト

黒川雅子・山田知代『生徒指導・進路指導』 学事出版

参考書・参考資料等

文部科学省『生徒指導提要』

学生に対する評価

授業内試験70%、課題提出物30%で評価する。

授業科目名： 教育相談の理論と方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 齊藤 崇
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
学級担任として、教職員との連携を踏まえた子どもや保護者の抱える問題へのかかわり方や援助の基本を身につける。			
教育の現場で起きている多様な問題に対する教育相談の進め方や、組織的な取り組みの必要性を理解する。			
授業の概要			
教育の現場で生じる多様な問題について理解し、教師としての問題への対応方法、保護者からの相談に応じる姿勢や考え方の基本、専門機関との連携について学ぶ。様々な問題を抱えた子どもに対して、教育と福祉の視点からどのような援助ができるかを考える。			
教育相談の基礎として、教師が行う教育相談の基本、発達段階に応じた子どもの問題、特別支援教育の理解と支援、予防・開発的な教育相談法、教師支援、保護者支援、校内や関係機関、スクールカウンセラーとの連携について取り上げる。学級担任として取り組む、教育相談活動の実践について学ぶ。			
授業計画			
第1回： 教育相談とは 教育相談の意義と課題を理解し、教育相談の担い手としての教師の役割を考える。			
第2回： 幼児期から就学期における子どもの問題 幼児期から就学期の虐待の対応や発達課題に応じた教育相談と支援の在り方を理解する。			
第3回： 小学校における子どもの問題 小学校での非行への対応や発達課題に応じた教育相談と支援の在り方を理解する。			
第4回： 学童期から中学校就学時における子どもの問題 学童期から中学校就学期の発達課題に応じた教育相談と支援の在り方を理解する。			
第5回： 発達障がいの子どもの理解 特別支援教育と教育相談について理解し、専門機関との連携について学ぶ。			
第6回： 精神疾患の子どもへの理解 精神疾患の子どもへの教育相談のあり方を理解し、専門機関との連携について学ぶ。			
第7回： 不登校・いじめでの子どもへの理解 不登校やいじめにおける子どもへの教育相談のあり方を理解し、専門機関との連携について			

て学ぶ。

第8回： 心理査定の方法

教育相談における心理査定の方法、あり方を理解し、心理査定の考え方や方法について学ぶ。

第9回： 心理査定の実際

教育相談における心理査定の実際を理解し、具体的な心理査定について学ぶ。

第10回：教育相談の理論（1）－力動的アプローチ

力動的アプローチの基本を理解し、教育相談の実際について学ぶ。

第11回：教育相談の理論（2）－行動論的アプローチ

行動論的アプローチの基本を理解し、教育相談の実際について学ぶ。

第12回：教育相談の理論（3）－体験論的アプローチ

体験論的アプローチの基本を理解し、教育相談の実際について学ぶ。

第13回：教育相談の技法

教育相談に必要なカウンセリング・マインドや傾聴技法を学ぶ。

第14回：保護者への理解と支援

教育相談における保護者からの相談の実際や保護者への支援を理解し、専門機関との連携について学ぶ。

第15回：スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの連携

スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの仕事を理解し、教育相談における協働を学ぶ。定期試験は実施しない。

テキスト

齊藤 崇 2018 『教育相談の理論と方法』 大学図書出版

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

課題提出状況、理解度テストを総合して評価する。

提出課題40%、理解度テスト60%

各授業回の最後に記入する受講レポートや提出課題は次回の授業までに確認し、授業内にて全体に対するフィードバックを行う。小テストについては、試験後に解答に関わる教員の評価視点を解説する。

シラバス：教職実践演習

シラバス:教職実践演習(小学校)		単位数:2単位		担当教員名:山田晋治	
科目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数50人					
テーマや内容に応じて小集団に分割し、各集団に教員が関わって指導を行う。					
教員の連携・協力体制					
課程内の専任教員の他、学内の心理臨床の専門家の協力を得る。					
授業のテーマ及び到達目標					
・教育実習の体験と学習内容に基づき、教育実践における様々な人間関係や場の状況を把握し、適切な指導の計画を立て、指導を実施・展開し、さらに指導後の評価や反省を行う実践力を養う。 ・「カウンセリングマインド」を基本とした児童の理解を基盤に、学習指導要領に示されている教育を実践する力や保護者とのかかわり方等について考え、ロールプレイングを通して学級担任としての指導力を実践的に身に付ける。					
授業の概要					
・少人数グループの演習形式とし、教育実習体験の様々な振り返りを通して多面的な視点をもつことができるようにする。 ・実習体験や事例を通して得られた様々な状況におけるかかわりの可能性について、ロールプレイを通して考えを深め、実践的に理解できるようにする。 ・各回のテーマに沿って積極的に発言し、他者から出された意見や指導者からのアドバイスを受け入れ柔軟に思考し、様々な解決の可能性を推し量れるようにする。 ・学び得た内容については、ICTを活用したプレゼンテーションを行うなどして互いに共有し合えるようにする。					
《受講に際しての事前あるいはまとめの学習》					
・教育実習ノート、および教育実習指導案を読み返し、反省点や自己の課題を発見するとともに、履修カルテへの入力を通じた自己評価を進める。 ・グループや全体での話し合いの内容は、授業の最後に授業内レポート用紙に記録し提出する。返却されたレポートの内容やコメントを読み返し、異なるテーマの中に横たわる共通性や、一つのテーマの中の多面性について、さらに考えを深め、最終レポート「教育を担うということ」をまとめるとともに、履修カルテを完成させる。					

授業計画

- 第1回：これまでの授業を振り返り（1年生～）授業のねらい・授業の進め方を理解する
- 第2回：教育実習体験の振り返りを通して自己の課題を明確にし、また共通する課題を把握するためのグループ討議
- 第3回：教育の営み・教師の役割について話し合う中で、教職の意義を理解するとともに、ICTを活用したプレゼンテーションを行い共有する
- 第4回：カウンセリングマインドについて講義を受けその視点から実習体験を振り返り教育実践におけるその意義を理解する
- 第5回：子どもの対人関係・社会性の発達を援助するかわりについて考える。役割演技（ロールプレイング）を通して、実践的に表現する力をつける
- 第6回：近隣の校・園を参観し、子ども同士の関係を中心に観察し、様々な子ども同士の関係を意識できるようにする
- 第7回：フィールドワーク（学校見学）の振り返りを通して子ども理解を深め、グループ討議の中で多様な子ども理解があることに気づく
- 第8回：役割演技（ロールプレイング）を通して、保護者とのかわりについて考える
- 第9回：カウンセラーの指導を受け、アサーショントレーニングに取り組み、アサーション・スキルの基本を身に付ける
- 第10回：役割演技（ロールプレイング）を通して、保護者とのかわりについて、アサーション・スキルの効果と教育実践におけるその必要性を理解する
- 第11回：役割演技（ロールプレイング）を通して、チーム保育・同僚とのかわりについて考える
- 第12回：地域・関係機関・専門機関との連携について講義を受け、グループ討論をし、諸機関との連携についての課題を理解する
- 第13回：これまでの授業をふり返り、授業を通して得られた教育実践力と今後の課題を明確にするとともに、ICTを活用したプレゼンテーションを行い共有する
- 第14回：教育の中で独自性をどのように発揮するかについて話し合い、教育の普遍性・独自性について理解する
- 第15回：この授業と、これまでの4年間の授業を振り返り、履修カルテをもとに自己の成長を確認する 定期試験は実施しない。

テキスト

青木久子,河辺貴子,間藤侑「子ども理解とカウンセリングマインド ― 保育臨床の視点から」
萌文書林 2018年3月 第4版

参考書・参考資料等

授業の展開に伴い、適宜ふさわしい資料を提供する

学生に対する評価

グループ討論・役割演技（ロールプレイング）への参加（50％）、レポート（50％）、により、教員としての必要な資質能力が身についているかを確認し、単位認定を行う。

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。